

令和5年度 第1回 在宅医療・介護連携ワーキンググループ 摘録

日 時 令和6年1月31日（水）午後3時00分～午後5時00分

場 所 ZOOMによるオンライン開催

出席委員 谷口副会長、麻田委員、荒川委員、奥本委員、川添委員、源野委員、児玉(直)委員
児玉(賢)委員、清水(紘)委員、竹内委員、中村委員、橋元委員、平田委員

欠席委員 奥野委員

事務局 岡課長、黒木係長、井口係員

（開会）午後3時00分

<司会>黒木係長

<開会あいさつ>岡課長

<会議成立の報告>黒木係長

<議題1>

在宅医療・介護連携支援センターの運営状況について

<事務局説明>

資料1 令和4年度及び令和5年度（上半期）活動実績

資料2 令和4年度共通取組テーマ報告書

資料3 第9期京都市民長寿すこやかプラン期間中の共通取組テーマについて

資料4 コーディネーター業務連絡会の開催状況

<意見交換・質疑>

（谷口委員）

複数の在宅医療・介護連携支援センターで開催の病院リレートークについて、好評であると聞いております。病院それぞれの特色と役割を知ることは、他職種と一緒に情報を共有してすすめるという意味では大変大事な事かと思えます。

また、次年度から3年間かけて取り組まれる ACPについても、とても大事な事だと思っております。ここ数年、あらかじめ本人・家族の同意のもと「看取る」と決めていたにも関わらず、息が止まったら 119 番通報をされるケースが増えており、蘇生処置をめぐるトラブルも発生しております。救急車は要請があれば、DNAR（心肺蘇生を望まない）患者だとしても、搬送するまで蘇生処置をすることになります。今後取組をされる中で、人生の最終段階において、あらかじめ「最期は主治医の先生に連絡してください。」という話までしていただくことで、DNAR 患者の搬送に関するトラブルも減らすことができると思います。ぜひ、その点について

の広報も併せてお願いしたいと思っております。

<議題2>

北区・上京区在宅医療・介護連携支援センターからの活動報告

<事務局説明>

資料5 北区・上京区在宅医療・介護連携支援センター報告資料

<意見交換・質疑>

(谷口委員)

せん妄の患者を地域の関係機関が連携して、最終的にグループホームで症状を落ち着かせて在宅に戻られたというすばらしい報告と、地域における災害対策についてのお話でございました。是非とも勉強して、追いついていけるようにしたいと思います。

(以上)